

# H30学力向上アクションプラン(杵築市)

## 目標及び指標

| 【目標】                                                                                                                                                                          |                                                                                                                                     |
|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| ①<br>(1)学力中・上位層の更なる学力の向上<br>(2)学力下位層の縮減                                                                                                                                       | ②<br>客観的なデータを用いた中間検証(学期ごと)に基づき、修正改善策が立てられ、授業改善に生かす。                                                                                 |
| 達成指標                                                                                                                                                                          | 取組指標                                                                                                                                |
| ①(1)【全国学力・学習状況調査】<br>・全ての教科の「知識」「活用」が全国平均正答率を超える。<br>【大分県学力定着状況調査】<br>・全ての教科の「知識」「活用」:小学校偏差値52、中学校偏差値51を超える。<br>【杵築市基礎基本定着状況調査(12月)】<br>・小5・6年、中2の全ての教科の「知識」「活用」が全国平均正答率を超える。 | ・全ての教員が、毎時間「ねらい」を明確にもち、「主体的な学び」を促す質の高い「めあて」「課題」「まとめ」「振り返り」を設定した授業を行う。<br>・全ての教員が、単元に2回程度、習得した「知識・技能」を「活用」する授業において、効果的に「書く」活動を取り入れる。 |
| ①(2)【大分県学力定着状況調査】<br>・学力下位層(偏差値34以下)の割合(7%未満)<br>【杵築市基礎基本定着状況調査(12月)】<br>・全ての教科で達成率(正答率が目標値と同程度、あるいは上回っている児童・生徒の割合)、小5:75%以上、中2:70%以上                                         | ・各学校は、可能な限り算数科・数学科・英語科の習熟度別指導を行う。<br>・全ての教員が、毎時間、習熟の程度に応じた指導を行う。                                                                    |
| ②【学校マネジメント4つの観点における事務所評価】<br>・「観点2」の評価:全てA以上(2回目評価)                                                                                                                           | ・学校は、学期毎に客観的なデータを用いて取組状況や達成状況を検証し、改善策を立て、授業改善を行う。                                                                                   |

## 行動計画

- ①「新大分スタンダード」に基づく組織的・計画的な授業構想による質の向上について
- ・教務主任、研究主任を中心とした「授業改善の5点セット」を活用した校内研究による授業改善。
  - ・学力向上支援教員、習熟度別指導推進教員による「新大分スタンダード」を踏まえた公開授業の実施。
  - ・可能な限り算数科、数学科、英語科等の習熟度別指導の実施。
  - ・全ての教員による習熟の程度に応じた指導の実施。(「個に応じた指導の手引き」の活用)
  - ・学力向上支援教員等の他校訪問(市内全ての小学校、小中の連携)による指導・助言。
  - ・指導主事による年2回以上の指導訪問の実施。
- ②「中学校学力向上3つの提言」に関して
- ・各学校における「3つの提言」に係る計画の立案と実施。
  - ・市教研教科部会の充実。  
(学力向上支援教員等の公開授業について、各教科部会で事前、事後の研究会を実施。また、学力向上支援教員等による教科部会での研修会の実施。)
  - ・各学校における効果的な「タテ持ち」の実施。
  - ・生徒による授業評価の実施。
  - ・目指す授業像を生徒と共有し、「学習目標」の設定と振り返りの実施。
  - ・補充学習(朝学習・放課後学習)、週2時間以上の実施。
- ③新学習指導要領の実施に関して
- ※小学校外国語への対応
- ・小学校3・4年生 15時間、5・6年生 50時間実施。
  - ・夏季休業中における5日間の登校日実施。(3～6年生:1日3時間、合計15時間の授業時数の確保。)
  - ・中学校学力向上支援教員(英語科)による小学校への指導訪問の実施。
- ※学校の教育目標の明確化と、総合的な学習の時間との関連等について
- ・各学校は、学力等について、育成を目指す資質・能力の3つの柱を踏まえた学校教育目標を設定し、教育目標の実現に向けた総合的な学習の時間の目標を設定するとともに、達成に向けて実践する。
- ※地域とともにある学校づくり(コミュニティ・スクール)について
- ・CSの指定を、平成29年度4校から、市内小学校全校(10校)に広げる。
  - ・学校の学力の課題を共有し、「学校評価の4点セット」に、家庭・地域との協働を位置付け実践する。
- ※市町村独自の学校への人的・物的支援計画
- ・市独自の学力調査の実施:4月小4(国語・算数)、中1(国語・算数)
  - 12月小4～6(国語・算数・理科)中1・2(国語・社会・数学・理科・外国語)
  - ・少人数指導等支援教員、複式学級支援教員の配置。
  - ・学習探検ナビ、タブレットの導入。